

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 工学部、工学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
工学部、工学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 工学部、工学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地域と歩む防災研究センターでは、北海道開発局網走開発建設部北見道路事務所及び北見河川事務所との三者による包括連携協定、北海道胆振東部地震の災害復興に関し当該被災地域であるむかわ町との包括連携協定を締結するなど、地域防災力向上に向けた取組を推進している。
- ロシア（ロシア科学アカデミーシベリア支所陸水学研究所）との国際協力による「バイカル湖ガスハイドレート」のための共同研究及び教育に関する協定書（平成 28～令和 2 年）を締結し、ハイドレート研究室（環境・エネルギー研究推進センター）を中心に、天然ガスハイドレートに関する研究を進めている。また、バイカル湖（ロシア）やオホーツク海、日本海（特にサハリン島沖や北海道沖）における海底・湖底調査を継続しており、天然ガスハイドレートの産状について調査している。
- 令和元年度に北見地域におけるハッカ産業の再興・持続的発展を目指し、ハッカ栽培から加工までの一連の研究成果をサービス・製品化することで、社会へ研究成果を還元すること目的に、地元企業との共同研究講座「HAKKALAB」を設置した。
- 令和元年度に、民間企業と 5G（第 5 世代移動通信システム）を活用した防災・第一次産業分野における研究力強化に関する連携協定を結び、スマート農業分野における無人トラクターの活用に向けた研究や防災分野における災害時の映像を瞬時に伝達し災害範囲などをリアルタイムで把握できる仕組みの構築等、研究の加速が期待できる環境が整備された。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、6件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。